

谷津干潟

(やつひがた)

位置：北緯35度40分、東経140度00分／標高：0m／面積：40ha／湿地のタイプ：干潟／保護の制度：国指定鳥獣保護区特別保護地区／所在地：千葉県習志野市／登録：1993年6月／国際登録基準：3／EAAFPネットワーク参加地

湿地のタイプ：干潟



東から見た谷津干潟



干潟の清掃／子ども音楽会／紙芝居上演(左から右へ)

湿地の概要：

谷津干潟は、東京湾の海岸線から約2km内陸に位置する、40ヘクタールの砂質・泥質干潟である。かつて東京湾一帯には、日本でも有数の広大な干潟が広がっていたが、江戸から東京への近代化の過程で次々と埋め立てられ、工業用地、住宅地、道路などへと変貌してきた。そうした開発の歴史のなかで、湾奥部に地元の人々の熱心な保護活動によって残されたのが谷津干潟である。

四方をコンクリートの壁に囲まれたプールのような干潟で、東と西の2本の水路でかろうじて東京湾とつながっている。干満によって潮の出入りがあり、満潮時には水深約1mの海水面となる。渡り鳥にとっては重要な中継地で、日本にくるシギ・チドリ類の10%が観察される。

都市に残された干潟：

東京都心から30分ほどの近さにある住宅地区で、マンションや学校、高速道路などに囲まれた、都市に残された貴重な自然環境として親しまれている。

1994年には、観察や教育の拠点として自然観察センターが設置され、市民が気軽に利用できるよう観察施設や園路が整備された。全国の同種施設で屈指の利用率で、バードウォッチングやレクリエーション、環境教育の場として多角的に活用されている。

2010年度からは、鳥類の生息環境の改善等を目的として、鳥獣の生息地の保護及び整備を図るための保全事業が開始された。

市民の参加：

条約湿地になる前、谷津干潟では市民による熱心な清掃活動がおこなわれていた。習志野市は干潟の保全には市民の参加と協力が不可欠と考え、自然観察センターを拠点にさまざまなプログラムを作成、市民ボランティアを受け入れて活発な活動を展開している。約130人がボランティア登録し、定期的な観察学習会、日常的なセンターの運営などに参加している。また、市民参加による干潟清掃もおこなわれている。

【湿地環境教育】自然観察センターでは、市内の小学校と連携し、干潟をフィールドとしたさまざまな環境教育プログラムを実施。プランクトン観察会や紙芝居上演・音楽会開催など工夫をこらしたパフォーマンス、鳥の実物大模型など独自の教材開発に取り組んでいる。オーストラリア・クイーンズランド州のブンドゥル湿地と湿地提携を結び、交流活動もおこなっている。

●関係自治体

習志野市役所 Tel: 047-451-1151

